

NISE 免許法認定通信教育

学習ガイド

令和 7 年度後期

本学習ガイドについて

本学習ガイドは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（NISE）が令和7年9月に開講する免許法認定通信教育について、受講の仕方、注意点等をまとめたガイドブックです。免許法認定通信教育の実施概要、受講申込に必要な情報、学習の進め方、シラバス等、NISE 免許法認定通信教育を受講するにあたって必要な情報を示していますので、ご活用ください。



【 NISE 免許法認定通信教育学習ガイド】

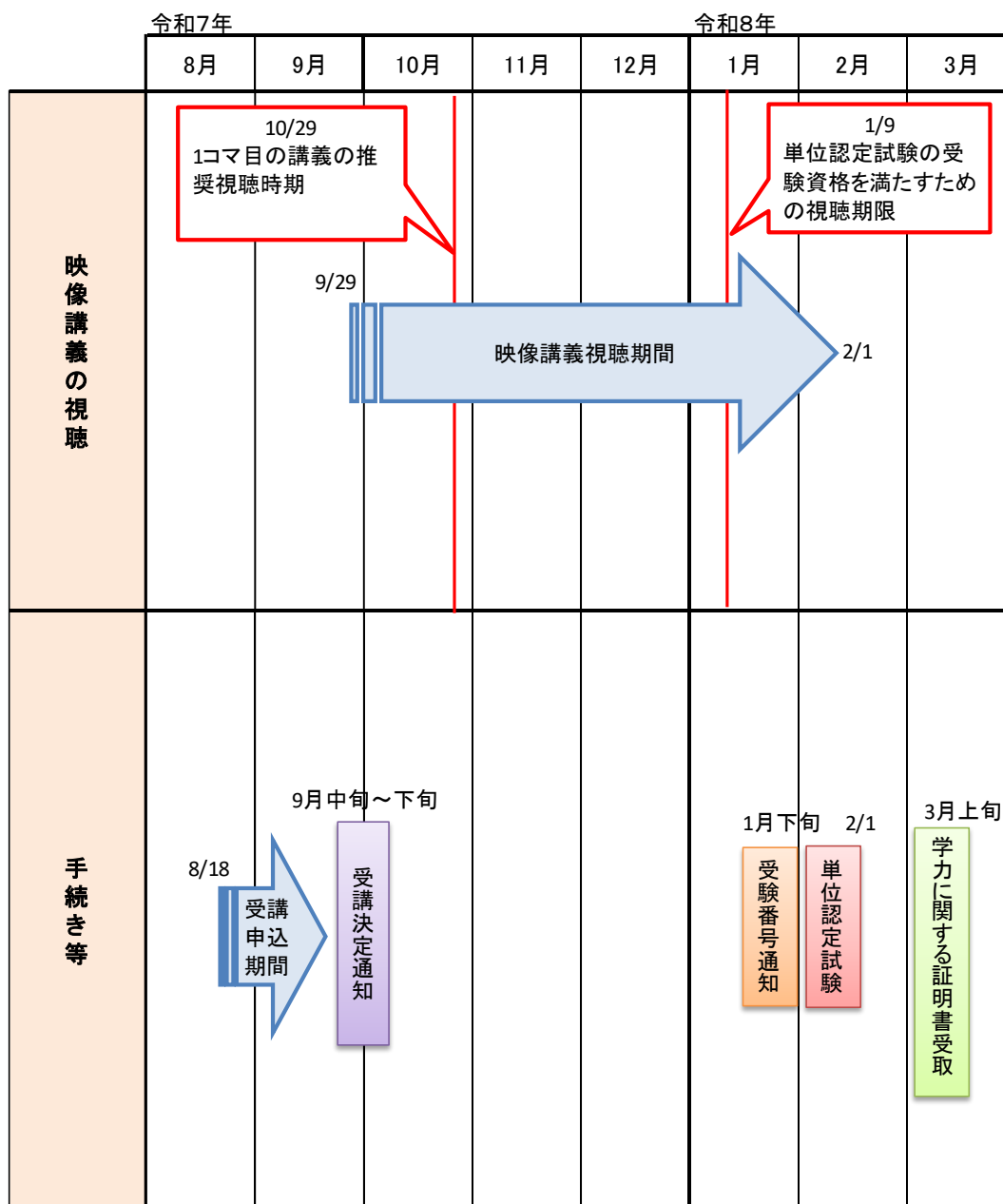
本学習ガイドについて	1
目次	
I 令和7年度後期 NISE 免許法認定通信教育の概要	3
1. 実施スケジュール	
2. 免許法認定通信教育受講のプロセス	
3. 令和7年度後期開講科目について	
4. 特別支援学校教員免許状取得の流れ	
II 受講に関するご案内	7
1. 免許法認定通信教育総合情報サイト	
2. 受講申し込み	
3. システムへのアクセス	
4. コンテンツ（映像講義）について	
5. 学習の進め方	
6. 成績審査・単位認定について	
7. NISE のリソースの活用について	
III よくある質問（FAQ）	21
IV 令和7年度後期開講科目シラバス	27
問い合わせ先	

I 令和7年度後期 NISE 免許法認定通信教育の概要

1. 実施スケジュール

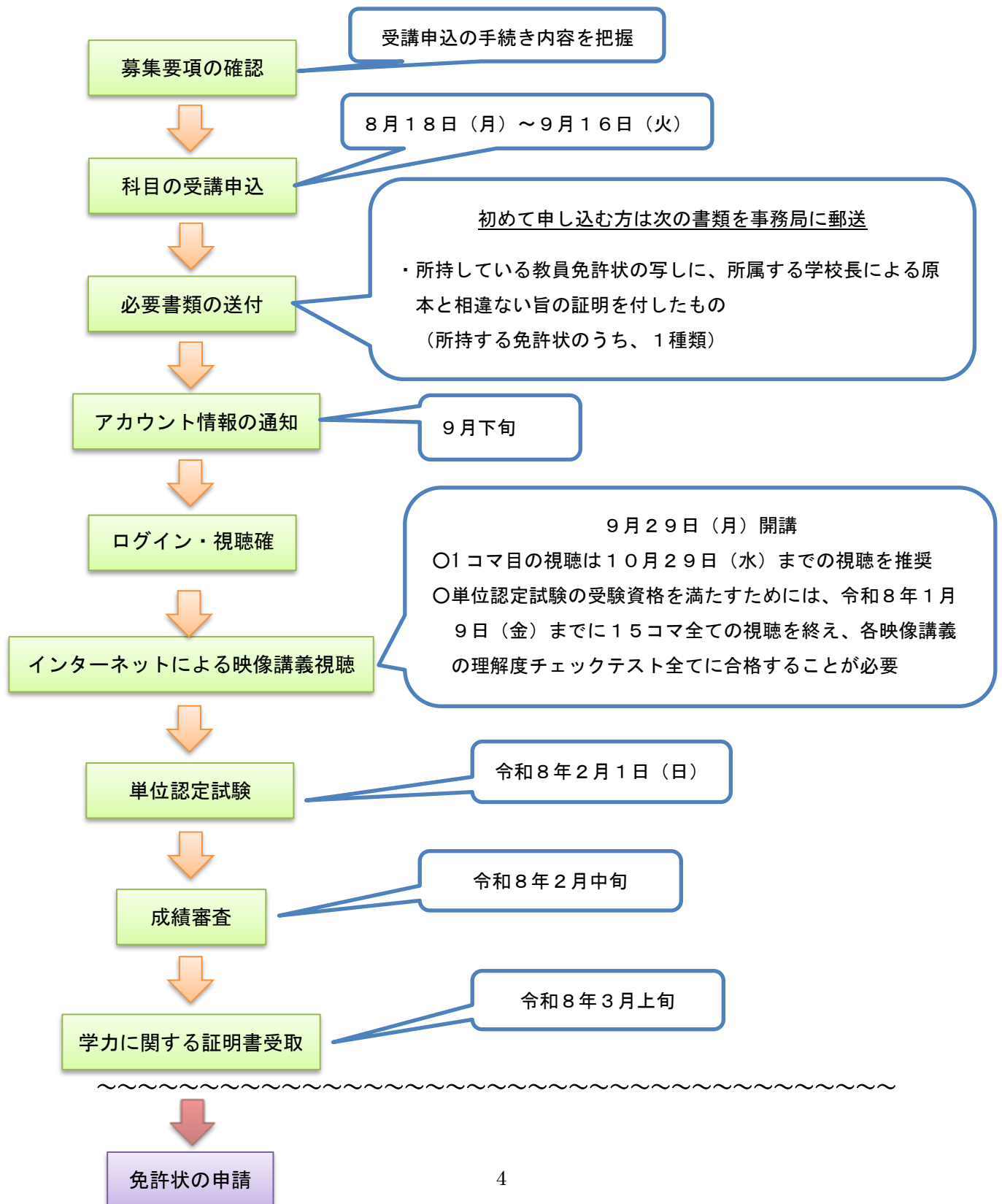
令和7年度後期の NISE 免許法認定通信教育の受講申込期間は令和7年8月18日（月）～令和7年9月16日（火）で、講義の開講は令和7年9月29日（月）、単位認定試験は令和8年2月1日（日）です。

令和7年度後期実施予定表



2. 免許法認定通信教育受講のプロセス

NISE 免許法認定通信教育のコンテンツ（映像講義）は、インターネットによって配信されます。受講から単位認定までの流れは以下の通りです。



3. 令和7年度後期開講科目について

令和7年度後期の開講科目は、「視覚障害児の心理、生理及び病理」（第2欄（特別支援教育領域に関する科目））及び「聴覚障害児の心理、生理及び病理」（第2欄（特別支援教育領域に関する科目））の2科目（各1単位）です。具体的な講義の構成は以下のとおりです。

番号	講義名称＜視覚障害児の心理、生理及び病理＞（視覚障害教育領域）
①	視覚の基本特性
②	視覚障害の生理Ⅰ（視覚器の構成と眼球）
③	視覚障害の生理Ⅱ（視神経・視中枢・眼球付属器）
④	視覚障害の生理Ⅲ（視力・視野）
⑤	視覚障害の生理Ⅳ（屈折・調節・眼球運動等）
⑥	視覚障害の生理Ⅴ（触覚）
⑦	視覚障害の生理Ⅵ（視覚補助具）
⑧	視覚障害の病理Ⅰ（眼疾患①）
⑨	視覚障害の病理Ⅱ（眼疾患②）
⑩	視覚障害児の心理Ⅰ（視覚認知）
⑪	視覚障害児の心理Ⅱ（光覚・色覚・形態覚）
⑫	視覚障害児の心理Ⅲ（触覚）
⑬	視覚障害児の心理Ⅳ（知能・記憶・思考）
⑭	視覚障害児の心理Ⅴ（視覚障害と発達①）
⑮	視覚障害児の心理Ⅵ（視覚障害と発達②）

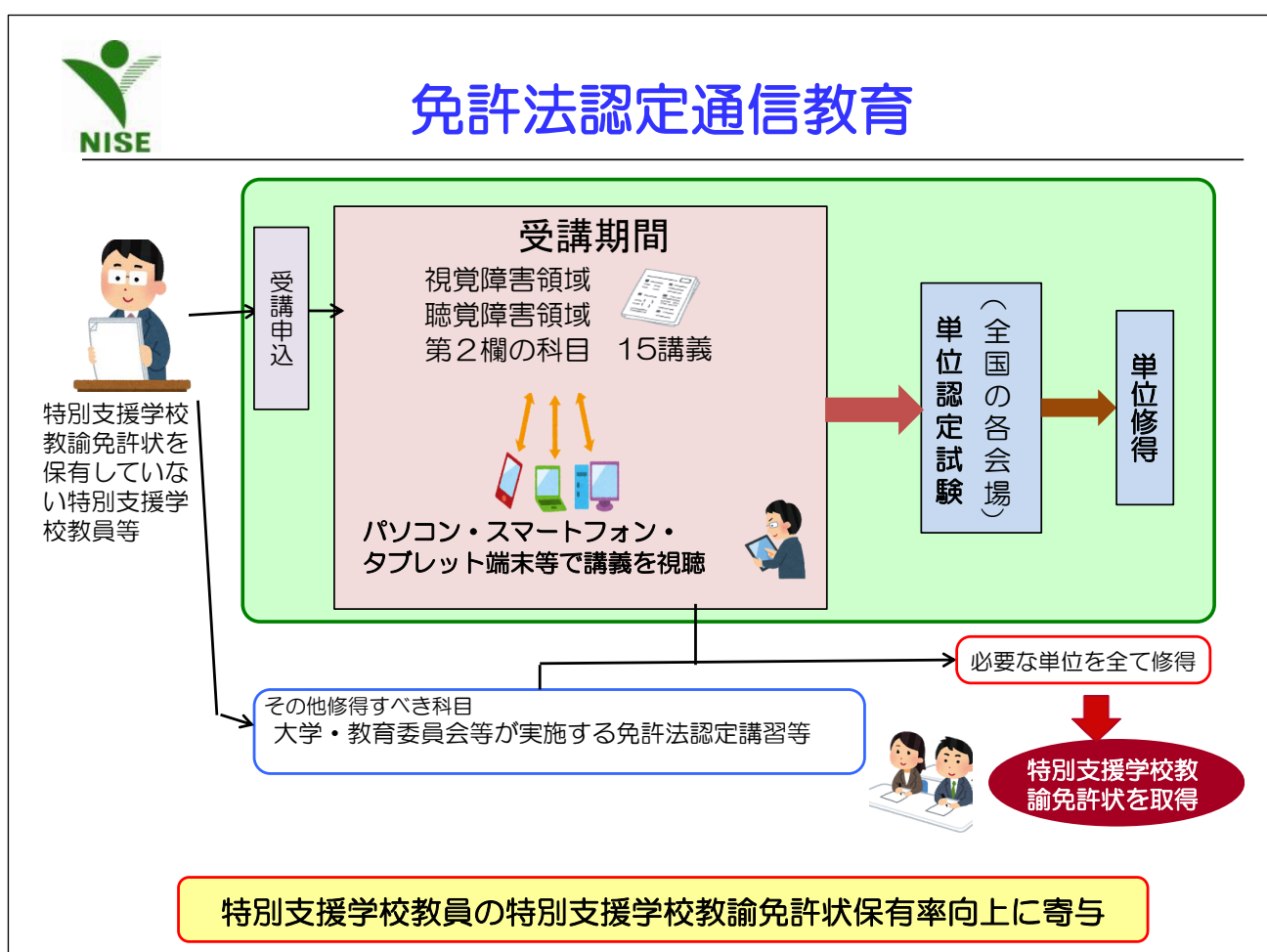
番号	講義名称＜聴覚障害児の心理、生理及び病理＞（聴覚障害教育領域）
①	聴覚障害の生理Ⅰ（聴覚機能）
②	聴覚障害の生理Ⅱ（聴力を中心とした聴覚機能と評価）
③	聴覚障害の生理Ⅲ（補聴器）
④	聴覚障害の生理Ⅳ（人工内耳）
⑤	聴覚障害の病理Ⅰ（難聴の種類と原因疾患）
⑥	聴覚障害の病理Ⅱ（小児難聴の原因①先天性難聴）
⑦	聴覚障害の病理Ⅲ（小児難聴の原因②後天性難聴）
⑧	聴覚障害児の心理Ⅰ（乳幼児期の心理と発達支援）
⑨	聴覚障害児の心理Ⅱ（児童期の心理と教育的対応）
⑩	聴覚障害児の心理Ⅲ（青年期の心理と教育的対応）
⑪	聴覚障害児の心理Ⅳ（認知発達・社会性の発達）
⑫	聴覚障害児の心理Ⅴ（言語発達）
⑬	聴覚障害児の心理Ⅵ（軽度・中等度難聴及び一側性難聴の理解と対応）
⑭	聴覚障害児の心理Ⅶ（Listening Difficulties の理解と対応）
⑮	小児難聴の早期発見

※過去に当研究所で開催した通信教育で同科目の単位を取得済の方は受講できません。

4. 特別支援学校教員免許状取得の流れ

NISE 免許法認定通信教育により、特別支援学校教諭の一種または二種免許状の取得に必要な単位の一部を修得することができます。

ただし、教員免許状は、都道府県の教育委員会が授与するものであり、各都道府県の教育委員会規則で取得に必要な単位を定めるため、本研究所の通信教育で修得できる単位で取得しようとする免許状の必要単位が満たされるか否か、また、申請に必要な条件や書類について、あらかじめ所轄の都道府県教育委員会に確認してください。



Ⅱ 受講に関するご案内

1. 免許法認定通信教育総合情報サイト

免許法認定通信教育総合情報サイトとは、NISE 免許法認定通信教育に関連する情報の案内を行うことを目的とした総合窓口となるウェブページです。本サイトに掲載される情報は以下の通りです。

☆受講者の方

- ① お知らせ（受講者向け）
- ② 免許法認定通信教育の概要
- ③ シラバス
- ④ 関連リンク集
- ⑤ FAQ（受講者向け）
- ⑥ 学習ガイド
- ⑦ 問い合わせ先

★受講を希望される方

- ① お知らせ（受講希望者向け）
- ② 免許法認定通信教育の概要
- ③ 受講募集要項
- ④ FAQ（受講希望者向け）
- ⑤ 学習ガイド（抜粋版）
- ⑥ 受講申込フォーム
- ⑦ 問い合わせ先

2. 受講申し込み

(1) 受講申し込みの方法（申込の際には「受講募集要項」をご一読ください）

本研究所の「免許法認定通信教育総合情報サイト」に設けた受講申込フォームから氏名・メールアドレス等の必要事項を入力の上、データ送信してください。

（[受講ご希望の方はこちら]→[受講申込フォーム]）にアクセスし、ログインボタン下の「受講申込」から「仮申請」→（送付されたメールの URL をクリック）→「申請の確定」まで行ってください。途中、利用規約の確認、動作確認があります。

データ送信後、申込受付期間内に、次の書類を下記の問合せ先宛に郵送してください。

また、本研究所の免許法認定通信教育を受講したことのある方については、書類の提出は不要です。

提出期限は**令和7年9月16日（火）**必着です。

○所持している教員免許状の写しに、所属する学校長による原本と相違ない旨の証明を付したもの

(2) 受講決定

申込受付期間終了後1週間程度で受講者を決定し、「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育～特別支援教育eラーニング～」の個人アカウント情報（ログイン ID 及びパスワード）をメールにてお知らせいたしますので、受領されましたら、ログインできるかどうかご確認ください。問題が生じた場合は、下記の問合せ先までお問い合わせください。

(3) 受講及び単位認定試験に際して配慮を希望する場合

病気・負傷や障害等のために受講及び単位認定試験の受験上の配慮を希望される場合は、個別に対応いたします。詳細につきましては、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育オフィス

メール：v-tsushin@nise.go.jp

3. システムへのアクセス

NISE 免許法認定通信教育では、パソコンやスマートフォンから「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育～特別支援教育 e ラーニング～」

(<https://menkyo.nise.go.jp/Elearning/>) にアクセスし、コンテンツ（映像講義）を視聴します。メールにてお知らせしたログイン ID（ユーザーID）とパスワードを入力して、システムにログインしてください。（ストリーミング配信のため、動画ファイルはダウンロードされません。）

- ① 「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育～特別支援教育 e ラーニング～」 (<https://menkyo.nise.go.jp/Elearning/>) にアクセスする。（下図参照）
- ② 申込受付期間終了後 1 週間程度でお送りしたメールにてお知らせしたログイン ID（ユーザーID）とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックする。

ログイン ID (ユーザーID) 及びパスワードを入力し、ログインボタンをクリック

ログイン ID

パスワード

ログイン

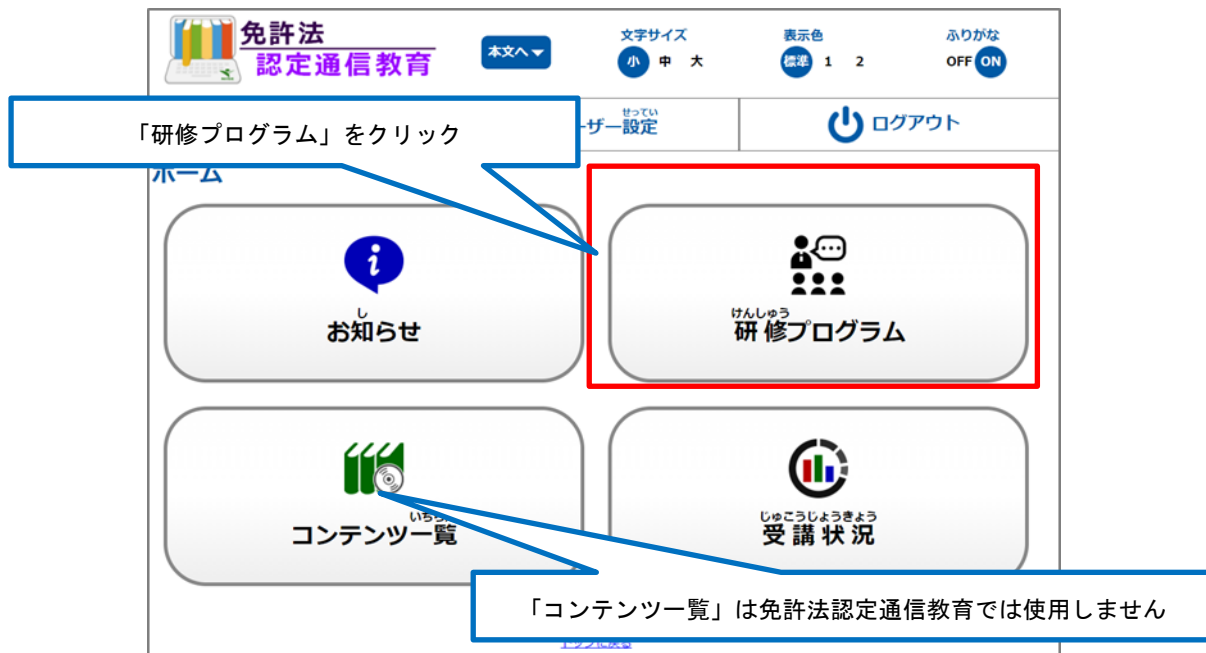
免許法認定通信教育
～特別支援教育 e ラーニング～ by NISE 学びラボ

パスワードをお忘れの方

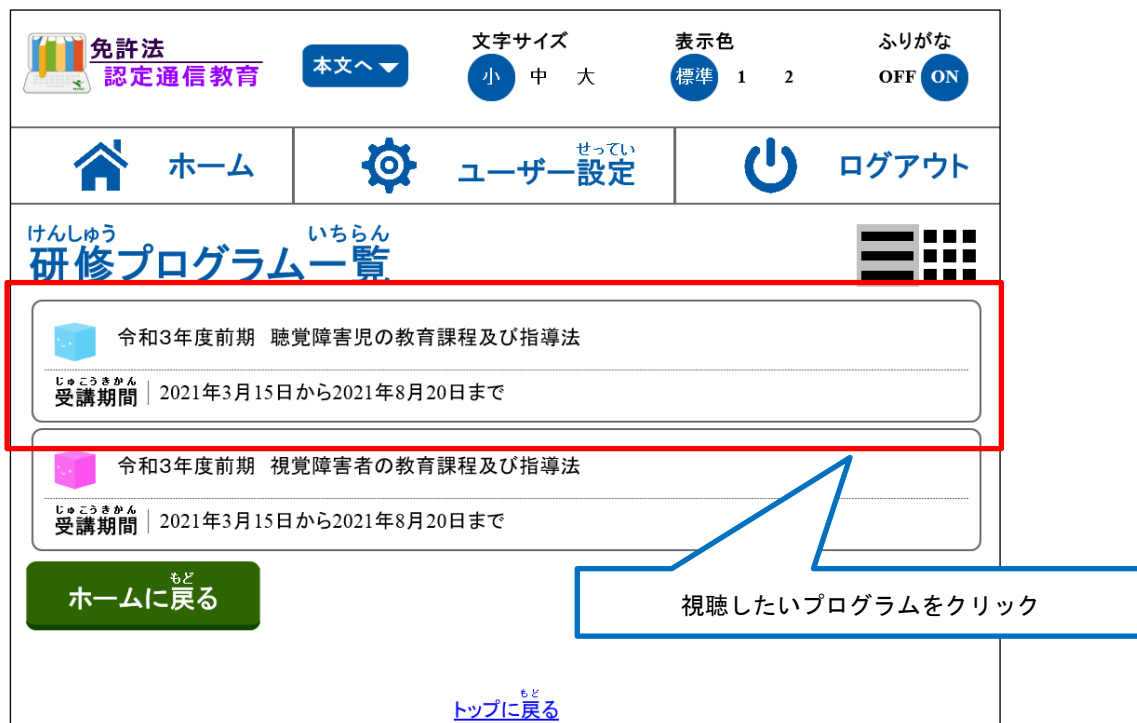
【お問合せ先】
免許法認定通信教育オフィス
v-tsushin@nise.go.jp

トップに戻る

- ③ ログインすると、ホーム画面が表示されるので、「研修プログラム」を選択する。
(下図参照)



- ④ 研修プログラムをクリックすると、「研修プログラム一覧画面」が表示されるので、受講したいプログラムを選択する。(下図参照)



(画像は令和3年度のものを使用しています)

- ⑤ 受講したいプログラムをクリックすると、「研修プログラム詳細」「コンテンツ一覧」が表示されるので、「コンテンツ一覧」より、視聴したいコンテンツ（映像講義）を選択する（下図参照）。（受講の順番が固定されていますので、前のコンテンツが受講完了しないと次のコンテンツには進めません。）

免許法 認定通信教育

本文へ

文字サイズ 小 中 大

表示色 標準 1 2

ふりがな OFF ON

ホーム ユーザー設定 ログアウト

研修プログラム詳細

研修プログラム | 令和3年度前期 聴覚障害児の教育課程及び指導法

実施状況 | 実施済

受講期間 | 2021年3月15日から2021年8月20日まで

概要

聴覚障害教育の歴史をたどり、教育課程の編成と実施、学習指導要領に基づき解説する。また、特別支援学校（聴覚障害）及び難聴特別支援学級等に在籍する聴覚障害のある幼児児童生徒に適切な理解や聴覚障害教育の教育的対応について解説し、聴覚障害教育に求められる専門性について言及する。また、聴覚障害児の言語発達の特徴とその背景、言語指導、コミュニケーションに用いられる様々な手段や活用についても解説する。さらに、言語指導、ICT活用、キャリア教育、社会参加について論じる。

コンテンツ一覧

実施状況 | 実施済

7_図画工作・美術

実施状況 | 実施済

14_自立活動Ⅳ(情報機器等の活用)

- ⑥ 視聴したいコンテンツをクリックすると、「受講詳細」画面が表示されるので、「開始」ボタンをクリックする（下図参照）。

免許法 認定通信教育

本文へ

文字サイズ 小 中 大

表示色 標準 1 2

ふりがな OFF ON

ホーム ユーザー設定 ログアウト

受講詳細

研修プログラム | 令和3年度前期 聴覚障害児の教育課程及び指導法

分類 | 視覚

コース | 心理、生理及び病理

コンテンツ | 7_図画工作・美術

実施状況 | 実施済

資料

視覚7_図画工作・美術.pdf

講義状況 | 実施済

開始 詳細

コンテンツ選択に戻る

研修プログラム一覧に戻る

- ⑦ 講義画面の左下にある再生ボタンをクリックすることでコンテンツ（映像講義）を視聴することができます。PDF 形式の資料もありますので、ダウンロードして参照しながらコンテンツ（映像講義）をご視聴ください（下図参照）。

なお、コンテンツ（映像講義）を最後まで視聴したら「受講終了ボタン」が活性化されますので、必ずクリックしてください。（「中断」ボタンでは受講を完了したことにはなりませんので、必ず「受講終了」ボタンをクリックしてください。）

The screenshot shows a video player interface. The main video area displays a title slide: "各教科の指導Ⅲ (図画工作/美術)". Below the video, there is a progress bar and a play button (a right-pointing triangle inside a circle). A blue callout box points to this button with the text: "「再生」ボタンをクリックすることで講義が始まります". To the right of the video, there is a sidebar with a PDF document titled "視覚7_図画工作・美術.pdf". Below the video player, there is a blue button labeled "受講終了" (End Lecture). A blue callout box points to this button with the text: "受講が終了しましたら、必ず「受講終了」ボタンをクリックしてください".

- ⑧ 視聴したコンテンツの「視聴済／未視聴」を確認するときは、「受講詳細」画面の「詳細」ボタンをクリックし、「コンテンツ受講状況」をご覧ください（下図参照）。

（実施済：受講完了しています 実施中：受講途中です 未実施：まだ受講していません）

受講詳細	
研修プログラム	令和3年度前期 視覚障害者の教育課程及び指導法
分類	視覚
コース	教育課程
コンテンツ	14_自立活動Ⅳ(情報機器等の活用)
コンテンツ受講状況	実施済
受講完了日	2021年3月25日 16時23分42秒
最新視聴日	2021年3月25日 16時32分33秒
受講回数	4回
受講時間	1分9秒

4. コンテンツ（映像講義）について

（１）コンテンツ（映像講義）の視聴方法

NISE 免許法認定通信教育では、１科目につき１５コマのコンテンツ（映像講義）が用意されています。１コマのコンテンツ（映像講義）の長さは約６０分です。１５コマの映像講義を番号順に視聴してください。

（２）資料（PDF 教材）の活用

資料は、講義のテキストとなる教材で、講義ごとに用意されています。基本的にはコンテンツ（映像講義）のスライド情報をそのまま資料（PDF 教材）として示しています。資料（PDF 教材）は、各講義の項目から PDF データをダウンロードできるようになっていますので、各自印刷またはご使用のパソコン等にダウンロードしてご活用ください。なお、本研究所からの印刷した教材の発送には、対応いたしかねますので、ご了承ください。

＜資料（PDF 教材）のダウンロード＞

コンテンツ（講義画面）にある「資料 ●●_X X X X .pdf」の上で右クリックし、「対象をファイルに保存」等でダウンロードすることができます（下図参照）。

The screenshot shows the NISE website interface. At the top, there are navigation links for '免許法認定通信教育' (License Law Certified Distance Education), '本文へ' (To Main Text), '文字サイズ' (Text Size) with options '小' (Small), '中' (Medium), '大' (Large), '表示色' (Display Color) with options '標準' (Standard), '1', '2', and 'ふりがな' (Furigana) with options 'OFF' and 'ON'. Below these are links for 'ホーム' (Home), 'ユーザー設定' (User Settings), and 'ログアウト' (Logout). The main content area is titled 'こうぎ講義' (Lecture) and includes a '研修プログラム' (Training Program) section with filters for '分類' (Category) set to '視覚' (Visual), 'コース' (Course) set to '教育課程' (Curriculum), and 'コンテンツ' (Content) set to '15_キャリア教育' (15_Career Education). A red box highlights the '資料' (Material) section, which contains the link '視覚15_キャリア教育.pdf'. The main content area also displays the title '免許法認定通信教育－視覚障害教育領域－' (License Law Certified Distance Education - Visual Impairment Education Field -) and the subtitle '視覚障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目' (Subject related to the education curriculum and guidance method for young children, children, or students with visual impairment). The main title is 'キャリア教育と職業教育' (Career Education and Vocational Education). The footer identifies the organization as '独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所' (Independent Administrative Institution National Special Support Education Comprehensive Research Institute) and the creator as '(作成者：西村 崇宏)' (Creator: Takahiro Nishimura).

(3) 理解度チェックテストについて

各講義の視聴後に、内容に関する理解度チェックテストを受けてください。理解度チェックテストは、各映像講義に3～5問程度用意されています。コンテンツ（映像講義）を視聴し「受講終了」ボタンをクリック後、受講詳細画面に「テスト」が表示されますので、画面上で回答してください。回答形式は択一式です。

- ① コンテンツ（映像講義）の「受講終了」ボタンクリック後、画面に表示される「テスト」の「開始」ボタンをクリックする（下図参照）。

免許法
認定通信教育

本文へ

文字サイズ
小 中 大

表示色
標準 1 2

ふりがな
OFF ON

ホーム ユーザー設定 ログアウト

受講詳細

研修プログラム | 令和3年度前期 聴覚障害児の教育課程及び指導法

分類 | 視覚

コース | 心理、生理及び病理

コンテンツ | 7_図画工作・美術

実施状況 | 実施済み

資料
視覚7_図画工作・美術.pdf

受講状況 | 受講済み

開始 詳細

開始 結果

コンテンツ選択に戻る

研修プログラム一覧に戻る

- ② テスト開始確認の「開始」ボタンをクリックする（下図参照）。

免許法
認定通信教育

本文へ

文字サイズ
小 中 大

表示色
標準 1 2

ふりがな
OFF ON

ホーム ユーザー設定 管理者用 ログアウト

テスト開始確認

テスト名 | 各教科の指導Ⅱ(図画工作/美術)

状況 | 実施中

出題数 | 3問

戻る

開始

トップに戻る

- ③ 解答は、問題に沿ってラジオボタンをクリックする形で行います（下図参照）。

- ④ 問題への解答が終わったら、画面下部の「採点」のボタンをクリックします（下図参照）。



- ⑤ 「採点」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます（下図参照）。

テスト結果詳細	
受講日	2021年03月30日 14時14分
問題数	3
満点	3
合格点数	2
点数	1
テスト結果	不合格

合格には6割以上の正答が必要です。

「テスト結果詳細」を参照し、合格基準に達しているか確認してください。コンテンツ（映像講義）、資料（PDF教材）を通して、学習内容を着実に身に付けたうえで、再度テストを受けてください。テストは何度でも実施可能です。

（次の講に進むには、映像講義を全て視聴すると共に、テストに合格する必要があります。）

5. 学習の進め方

（1）事前・事後学習

開講科目のシラバス（p.27以降を参照）には、映像講義ごとの事前・事後学習について言及しています。内容を確認のうえ、学習を深めてください。

また、各映像講義の共通の事前学習教材として、「特別支援教育の基礎・基本 2020-新学習指導要領対応」（国立特別支援教育総合研究所著作 出版日：2020年6月、出版社：ジアース教育新社）を推奨しています。

（2）計画的な学習

1科目の映像講義は15コマです。**令和7年9月29日（月）～令和8年1月9日（金）**の期間に1週間1コマの視聴計画となるよう作成されています。正しくログインができるか、また映像講義を正常に視聴できるかを確認するためにも、**1コマ目の講義はできるだけ令和7年10月29日（水）までに視聴してください。**その後は、15コマの映像講義を番号順に視聴してください。各自計画的に学習を進めてください。

〈学習の進め方の例〉

- ・毎週一つの映像講義を視聴して、その前後で事前・事後学習を行う。
- ・週末等を利用する等、一定期間に集中して視聴し、事前・事後学習も集中して行う。

（3）講義内容に関する質問

映像講義の視聴を進めていく中で生じた疑問等を解消するため、担当講師への質問をメールで受け付けます。具体的な手続きについては、以下に示す通りです。

① 担当講師への質問

担当講師への質問は、以下のメールアドレスまでお願いします。なお、質問の際は、以下の注意事項を確認してください。

【送付先アドレス】 **v-tsushin@nise.go.jp**

- 質問は映像講義の内容に限ります。講義内容と関係のない質問には対応いたしかねますので、ご注意ください。

- 質問は、氏名、ログイン ID、講義名、スライド番号等における該当箇所を明示し、関係部分を引用する等、なるべく具体的に提示するようにしてください。
- 自分で十分調べた結果、どうしても分からない場合のみ、質問するようにしてください。

② 質問に対する回答

質問については、担当講師が回答し、免許法認定通信教育オフィスより返信します。ただし、質問内容の妥当性や回答の必要性を加味した上で対応を判断するため、必ずしも全てに回答できるとは限りませんのでご了承ください。回答には、およそ 1 週間程度の時間がかかります。また、担当講師の都合等により、更に時間を要する場合があります。

③ 回答メールの受信上の注意

回答メールは、頂いたメールの「返信」でお送りします。こちらからのメールを問題なく受信できるよう、あらかじめドメイン指定の解除を行ってください。

※本研究所からの回答の際に使用するメールアドレス (v-tsushin@nise.go.jp)

6. 成績審査・単位認定について

科目の受講を完了し、単位認定試験の受講資格を得た方は、令和 8 年 2 月 1 日（日）に実施する単位認定試験を受験することができます。

（１）単位認定試験の受験資格及び単位認定の要件について

① 単位認定試験の受験資格について

令和 7 年度後期の単位認定試験は令和 8 年 2 月 1 日（日）に実施します。単位認定試験の受験資格を得るためには、以下を視聴期限の令和 8 年 1 月 9 日（金）までに行ってください。

- a. 科目の全講義（15 講義分）の視聴を最後まで終えること。
- b. 各講義の理解度チェックテスト全てにおいて合格点（6 割）を取得すること。

② 単位認定の要件について

単位認定の要件は、単位認定試験において**合格点（60 点）**を取得することです。

（２）単位認定試験の会場について

試験会場は受験者がいるすべての都道府県（勤務地）に設置します。勤務地がある都道府県の試験場で受験していただきます。単位認定試験の試験会場（都道府県）については、令和 8 年 1 月上旬頃にお知らせします。

（３）受験番号の通知

令和８年１月下旬頃までにメールにて受験番号を通知します。併せて、単位認定試験の受験会場をお知らせいたしますので、ご確認の上、当日指定された受験会場までお越しください。試験日の１週間前になっても受験番号通知が届かない場合は、免許法認定通信教育オフィスまでお問い合わせください。

（４）試験問題について

単位認定試験の出題範囲は、第１回から第１５回までの映像講義とそれに対応する資料（PDF 教材）の範囲で、実施時間は６０分です。解答はマークシート方式（択一式）となります。

※講義中の理解度チェックテストと同じ問題は出題されません。

（５）試験実施の方針

試験実施の方針は、以下の通りです。

- ① 試験当日は資料（PDF 教材）や手書きのノート等を見ながらの回答はできません。
- ② 試験当日の問題の内容に関する質問には応じません。
- ③ 単位認定試験問題の持ち帰りは可としますが、インターネット等にアップすることは禁止します。

（６）試験結果について

試験結果については、令和８年２月中旬～下旬にメールにて送付します。また、合格された方には「学力に関する証明書」を令和８年３月上旬に郵送します。

（７）試験正答の公表及び疑義について

単位認定試験の正答は、試験実施翌日から１週間後まで、免許法認定通信教育総合情報サイト上で公開いたします。この間、試験問題の疑義についても受け付けます。

（８）開示請求について

各受験者の試験の結果について、開示請求があった場合、受験者本人に対してのみ開示いたします。手続きについては、別途定めます。

（９）出題ミスの対応について

万が一、単位認定試験の出題に誤りがあった場合は、誤りの内容及び採点の際の対応等について、免許法認定通信教育総合情報サイト上に掲載いたしますので、ご確認ください。

（１０）再試験

全ての講義の視聴を終え、単位認定試験の受験資格を得ていれば、次に同じ科目が開講されたときのみ、単位認定試験のみの受験ができます。詳細については、免許法認定通信教育オフィスまでお問い合わせください。

７．NISE のリソースの活用について

免許法認定通信教育を受講するにあたって本研究所の様々なリソースをご活用ください。

（１）インターネットによる講義配信「NISE 学びラボ～特別支援教育 e ラーニング～」

本研究所では、障害のある児童生徒等の教育に携わる教員の資質向上を図る取組を支援するため、インターネットによる講義配信「NISE 学びラボ～特別支援教育 e ラーニング～」によりコンテンツを配信しています。講義は約 170 コンテンツあり、タブレット、スマートフォンでも視聴可能です。「NISE 学びラボ」を視聴するためには、個人登録が必要です (https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/online)。

（２）図書室

本研究所の図書室は、特別支援教育に関連する分野の文献を中心に和洋図書 70,000 冊以上、大学、教育センター、特別支援学校等の紀要、研究報告書を中心とする資料類 30,000 種以上を収集・保存し、情報提供を行っています。

また、来所されての閲覧、文献複写はどなたでも利用できますが、貸出は原則として行っておりません。また、閲覧には事前連絡が必要です。詳しくは本研究所ホームページ「所外利用者案内」のページ (<https://www.nise.go.jp/nc/library/guide/outside1>) をご覧ください。

来所されずに、文献複写・郵送をご希望される方は、免許法認定通信教育オフィスまでお問い合わせください。

（３）発達障害教育推進センターのコンテンツ

本研究所では、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援を図り、さらに広く国民の理解を得るために、Web サイト等による情報提供や理解啓発、調査研究活動を行っています。

本 Web サイトでは、発達障害のある子どもの教育に関わる教員を主な対象として、発達障害のある子どもの教育的支援に必要な基礎的内容について、個人や職場での研修に活用

していただけるような講義を動画で配信しています。こちらの動画視聴には事前の登録等は必要なく、どなたでもご利用いただけます。講義はテーマごとに合計25タイトル（令和7年9月1日現在）あり、それぞれ15分から20分程度の動画となっているため、手軽に視聴することが可能です。詳しくは、「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター」のホームページ（http://icedd_new.nise.go.jp/）をご覧ください。

（４）所内見学

本研究所では、随時見学対応を行っています。見学の際は、本研究所の概要説明や施設の案内等を通して、本研究所及び特別支援教育に対する理解を深めていただける機会を提供します。学習を進めていくうえで、貴重な機会となりますので、興味のある方はぜひご来所ください。なお、見学は1名から受け付けていますが、事前に所定の書類をご提出のうえ、申請していただく必要があります。詳しくは、本研究所ホームページ「見学のご案内」のページ（<http://www.nise.go.jp/nc/tour?category=family>）をご覧ください。

Ⅲ よくある質問（FAQ）

1. 講義配信システムについて

Q 1. 講義を視聴していると、頻繁に止まったり、視聴履歴の更新に失敗したりします。

- A 1. ①インターネット環境を確認してください。通信状況が良くない場合に上記のような不具合が起こる可能性があります。WiFi やデータ通信を使用している場合は、無料のものは避け、接続環境の良い場所でご視聴ください。
- ②職場等で視聴しようとする、セキュリティの関係でブロックされることがあります。セキュリティ管理者に相談するか、免許法認定通信教育オフィス（以下、オフィス）までお問合せください。
- ③上記以外で、不具合が発生した場合は、オフィスまでお知らせください。

Q 2. 理解度チェックテストに回答したのに次のコンテンツに進めません。

- A 2. ①理解度チェックテストの合格には6割以上の正答が必要です。結果画面で、自分の回答をご確認ください。合格に満たない場合は、結果を確認の後、資料（PDF 教材）を活用したり、コンテンツ（映像講義）を見直す等してから、改めて回答してください。理解度チェックテストは何度でも実施可能です。
- ②理解度チェックテストはコンテンツ（映像講義）を視聴し終わり、「受講終了」ボタンをクリックするとテストの「開始」ボタンが表示されるようになっています。理解度チェックテストの画面が表示されない場合は、コンテンツ（映像講義）の視聴状態が「実施済」になっていることをご確認ください。不具合が解消されない場合はオフィスまでお知らせください。

Q 3. 受講期間が残っていますが、全ての講義を見終わってしまいました。

- A 3. 講義は終了です。資料（PDF 教材）等を活用いただき、単位認定試験までお待ちください。なお、コンテンツ（映像講義・理解度チェックテスト）は何度でも繰り返しご視聴いただけます。

2. NISE 免許法認定通信教育のしくみや要件に関すること

Q 1. NISE の免許法認定通信教育ではどの科目の単位が修得できるのですか。

A 1. NISE の免許法認定通信教育で修得できる科目は、視覚障害教育領域・聴覚障害教育領域の第2欄の、「心身に障害のある幼児、児童または生徒の教育課程及び指導法に関する科目」と「心身に障害のある幼児、児童または生徒の心理、生理及び病理に関する科目」でそれぞれ1単位となっています。これは、視覚障害教育、聴覚障害教育の免許状取得に必要な単位の一部です。免許状取得のために必要な単位数は、都道府県教育委員会によって異なるため、所属の教育委員会に確認してください。

Q 2. 誰でも受講できますか。

A 2. 受講申込には条件があり、募集要項にも記載されています。具体的には、「特別支援学校、幼稚園、小学校、中学校、高等学校のいずれかの教員免許状を持ち、視覚障害教育領域または聴覚障害教育領域の特別支援学校教諭一種・二種免許状の取得若しくは既に有している特別支援学校教諭免許状へ視覚障害教育領域または聴覚障害教育領域の追加を目指す方」としています。

Q 3. 教員免許状をもっていなくても受講できますか。

A 3. 残念ながら、NISE の免許法認定通信教育の受講者については、学校教員が対象となっておりますので、教員免許状を保有していない方は受講することができません。

Q 4. 単位を修得するまでに要する期間はどれくらいですか。

A 4. 開講から約6か月で単位を修得することができます。

Q 5. 受講するために必要な機器等を教えてください。

A 5. 映像講義はパソコンもしくはタブレット端末、スマートフォンでの視聴が可能です。また、質問等の情報のやり取りはメールにて行います。なお、講義内容はPDF形式でダウンロードできますので、パソコンやタブレットに保存して使用したり、印刷して紙で学習したりすることができます。

Q 6. 自宅にインターネット環境がないと受講できないのでしょうか。

A 6. 必ずしも自宅で受講する必要はありません。インターネットに接続できるパソコンが利用できる場所で受講していただいてもかまいません。ただし、受講場所にかかわらず、受講申込において「動作確認」を行いますので、必ず動作確認を実施

し、問題なく視聴できるインターネット環境かどうか確認するようにしてください。

Q 7. パソコン操作が苦手です。どの程度できれば受講できますか。

A 7. 本研究所の通信教育の視聴に際して、難しいパソコン操作は要求されませんのでご安心ください。インターネット検索ができる程度で問題ありません。

Q 8. 受講料はかかりますか。

A 8. 無料です。ただし、受講のためのパソコン、タブレット、スマートフォンの通信にかかる費用、および単位認定試験における会場までの交通費は受講者の負担となります。

Q 9. 勤務地を離れて、免許法認定通信教育を受講する場合のサービスの取り扱いについては、どのようにすればよいですか。

A 9. ご自身の所属校の管理職にご確認ください。

Q 10. 以前受講し単位を取得した科目について、再度受講することで更に単位を取得することはできますか。

A 10. すでに当研究所の免許法認定通信教育で単位を取得した科目については、再度受講することはできませんのでご注意ください。

3. 事務手続きに関すること

Q 1. 事務手続きに関するメール等（「免許法認定通信教育」利用申請承認のお知らせ）が届きません。

A 1. 本学習ガイドに示した期日までにメール等が届かない場合には、オフィスにメールでお問い合わせください。

Q 2. 住所や所属先が変更になりました。

A 2. 住所や電話番号、所属等に変更があったときは、すみやかにオフィスまでご連絡するとともに、「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育～特別支援教育 e ラーニング～」の「ユーザ設定」より情報を変更してください。

Q 3. 修得単位の証明書は発行されますか。

A 3. 単位認定試験後の成績審査に合格した方に「学力に関する証明書」を郵送いたします。

- Q 4. 講義の視聴状況（視聴した日時等）を証明するための書類が発行できますか。
A 4. そのような書類の発行はできません。

4. 学習の進め方に関すること

- Q 1. 1 科目の単位を修得するのに、いくつかの講義がありますか。
A 1. NISE 免許法認定通信教育では、1 科目につき 15 コマ分の映像講義が用意されており、順番に視聴していただきます。1 コマ分の映像講義の長さは約 60 分です。事前、事後学習を含め、各自で計画的に学習を進めてください。
- Q 2. 資料（PDF 教材）はどのように入手できますか。
A 2. 各講の「受講詳細画面」「講義画面」に資料（PDF 教材）の PDF ファイルを掲載しておりますので、適宜ダウンロードしてご活用ください。
- Q 3. 講義の内容について電話で質問したいのですが。
A 3. 原則として電話での質問対応は行っておりません。質問がある場合は、メールにてオフィスにお送りください。
- Q 4. 研究所に直接行って、講師の先生に相談することはできますか。
A 4. 所内見学の箇所に記載した所定の手続きにしたがって、研究所の中を見学することは可能ですが、講師と直接に免許法認定通信教育に関する情報交換を行うことはできません。
- Q 5. NISE の図書室を利用することはできますか。
A 5. 可能です。ただし所外の方がご利用いただく場合は、事前連絡が必要ですので、詳しくは所外利用者案内
(<https://www.nise.go.jp/nc/library/guide/outside1>) をご覧ください。
- Q 6. 病気・負傷や障害等のために受講中の配慮を希望します。
A 6. 個別に対応いたします。詳細につきましては、オフィスまでお問い合わせください。

5. 単位認定試験、単位取得、履修、免許状取得等に関すること

Q 1. 単位認定試験の会場はどこですか。

A 1. 試験会場は受験者がいるすべての都道府県（勤務地）に設置します。勤務地がある都道府県の試験場で受験していただきます。

Q 2. 修得した単位に有効期限はありますか。

A 2. 修得いただいた単位に特段の有効期限は設けておりません。

Q 3. 途中で受講の継続が難しくなりました。

A 3. やむを得ず受講を途中でやめるにあたっては、所属長や教育委員会とご相談の上、オフィスまでご一報ください。

Q 4. 途中で受講を止めてしまいました。再履修・再受講したいのですが。

A 4. 次期の募集要項を入手の上、再度、次期の受講の手続きを行ってください。

Q 5. 受講を途中で止めてしまい、次の期に再受講します。それまでに視聴した講義分を、次の期で視聴した講義としてカウントできますか。

A 5. 途中で受講を止めて、次期に再受講した場合、残念ながらそれまでに視聴した講義を、次期の視聴分としてカウントすることはできません。同じ科目を再受講する際には、一度視聴した講義についても、再度視聴してください。

Q 6. NISE の免許法認定通信教育で、特別支援学校教諭免許状を取得できますか。

A 6. 本研究所の通信教育を受講することにより、特別支援学校教諭免許状を取得するために必要な単位の一部を修得することは可能ですが、それだけでは免許状を取得することができません。免許状取得に必要な要件等は都道府県教育委員会ごとに異なりますので、各自でご確認の上、受講にあたってください。

Q 7. 現在、大学の通信課程で教職課程を履修しています。研究所の単位を修得単位として利用することはできますか。

A 7. 残念ながら、NISE の免許法認定通信教育の単位を、大学の教職課程の修得単位として申請することはできません。

- Q 8. 過去に出題された問題を閲覧することは可能ですか。
- A 8. 過去問題の公開は行っておりません。
- Q 9. 単位認定試験の受験要件を満たしたにもかかわらず、当日受験できませんでした。次期も映像講義から視聴しなければいけませんか。
- A 9. 全ての講義の視聴を終え、単位認定試験の受験資格を得ていれば、次に同じ科目が開講されたときのみ、単位認定試験のみの受験ができます。詳細については、オフィスまでお問い合わせください。
- Q 10. 病気・負傷や障害等のために単位認定試験当日の配慮を希望します。
- A 10. 解答方法や試験時間に関する配慮、試験室や座席に関する配慮、持参して使用するものに関する配慮、その他ご相談に応じて個別に対応いたします。詳細につきましては、オフィスまでメールでお問い合わせください。

IV 令和7年度後期開講科目シラバス

(1) 視覚障害教育領域「視覚障害児の心理、生理及び病理」 責任講師：金子 健

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
①	『視覚の基本特性』 澤田 真弓 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、これから「視覚障害児の心理、生理及び病理」を学ぶための基礎となる「視覚の基本特性」について概観する。 視覚障害とはどのような障害なのか、また、視覚障害という障害特性を踏まえて、視覚障害教育の本質や、さらには個々の実態をどのような視点で把握していくのかについて説明する。	・事前学習 日常生活の中での視覚障害に関係する物や様々な配慮等について考えておくこと。また、印刷教材を事前に確認しておくこと。 ・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分を再度確認し、引用・参考文献等にて学習を深めること。
②	『視覚障害の生理Ⅰ (視覚器の構成と眼球)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	視覚器の構成について述べた後、その一つである眼球について、外形、網膜で光刺激が受容されるまでの経路等の概略について説明する。 そして、角膜、ぶどう膜、網膜、水晶体等、眼球各部の構造と機能について説明する。	・事前学習 視覚器とは何かを調べておくことと、眼球の解剖の概略について調べておくこと。 ・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。
③	『視覚障害の生理Ⅱ (視神経・視中枢・眼球付属器)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	『視覚障害の生理Ⅰ(視覚器の構成と眼球)』に引き続いて、視覚器のうち、視神経、視中枢、眼球付属器について、その構造と機能を説明する。また、大脳での視覚に関する処理の障害として、中枢性視覚障害を取り上げる。	・事前学習 視神経、視中枢、眼球付属器の解剖の概略について調べておくこと。 ・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。
④	『視覚障害の生理Ⅲ (視力・視野)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	視覚の機能のうち、視力と視野を取り上げ、それぞれの定義、測定方法について説明する。また、それぞれが障害された場合の状態についても説明する。	・事前学習 視力とは何か、視野とは何か、それぞれの定義について調べておくこと。 ・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。
⑤	『視覚障害の生理Ⅳ (屈折・調節・眼球運動等)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	視覚の機能のうち、屈折、調節、眼球運動の他、輻輳と開散や眼位、両眼視を取り上げ、それぞれの定義、測定方法について説明する。また、それぞれが障害された場合の状態についても説明する。 なお、弱視で両眼視ができない場合、単眼でも、対象の立体的な認知において利用可能な手がかりについても述べる。	・事前学習 屈折、調節、眼球運動、輻輳と開散、眼位、両眼視、それぞれの定義について調べておくこと。 ・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
⑥	『視覚障害の生理Ⅴ (触覚)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	触覚の受容器及びその神経の応答特性、大脳までの触覚の伝導路、大脳での触覚情報の処理等、触覚についての生理学的基盤について説明する。また、触覚に関する障害として、触覚の空間分解能の低下、触覚についての感覚過敏等を取り上げて説明する。	<p>・事前学習 体性感覚とは何かについて、調べておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。</p>
⑦	『視覚障害の生理Ⅵ (視覚補助具)』 土井 幸輝 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、眼光学の基礎知識について説明するとともに、代表的な視覚補助具である近用弱視レンズおよび遠用弱視レンズの光学的特性と指導のポイントについて説明する。	<p>・事前学習 眼の屈折については事前学習として復習しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。</p>
⑧	『視覚障害の病理Ⅰ (眼疾患①)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	まず、視覚障害を引き起こす眼疾患がどのようなものであるかについて、分類と概要を説明する。 そして、角膜疾患、水晶体疾患、硝子体疾患、ぶどう膜疾患を取り上げ、それぞれ詳しく説明する。	<p>・事前学習 眼疾患とは何か(定義)について調べておくこと。また、角膜、水晶体、硝子体、ぶどう膜とは何かについて、これまでの講義での該当部分を復習しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義中に出てきた眼疾患について復習すること。</p>
⑨	『視覚障害の病理Ⅱ (眼疾患②)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	『視覚障害の病理Ⅰ(眼疾患①)』に、引き続いて、網膜疾患、視神経・視路疾患、眼球全体の疾患を取り上げて、説明する。また、小児の眼疾患についても取り上げ、特性について説明する。	<p>・事前学習 網膜、視神経・視路とは何かについて、これまでの講義での該当部分を復習しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義中に出てきた眼疾患について復習すること。</p>
⑩	『視覚障害児の心理Ⅰ (視覚認知)』 西村 崇宏 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、弱視児における視覚認知の特徴について、心理学的研究で得られた知見を踏まえながら説明する。また、視覚認知の発達段階を診断し、支援の手がかりを得るためのフロスティック視覚発達検査について、概要や実施上の留意点、結果の解釈等を説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。必要に応じて、引用・参考文献等を活用して学習を深めておくこと。</p>

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
⑪	『視覚障害児の心理Ⅱ (光覚・色覚・形態覚)』 澤田 真弓 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、眼球から視神経、視覚中枢への信号の伝達経路について復習し、その中で光覚、色覚、形態覚が生じる仕組みについて説明する。そして、それらを踏まえて、光覚、色覚、形態覚の特徴について述べる。	<p>・事前学習 視覚器の構造や視覚伝導路について復習しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、光覚、色覚、形態覚の特徴について理解できたか確認しておくこと。また、引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑫	『視覚障害児の心理Ⅲ (触覚)』 土井 幸輝 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、まず、触覚関連の感覚の分類や特性を取り上げる。そして、触覚的に入手可能な情報の種類や、触覚を活用する各状況から、触知覚の特性や視覚障害との関係について述べる。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、触覚に関わる感覚の分類や特性、触知覚の特性や視覚障害との関係について確認しておくこと。また、引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑬	『視覚障害児の心理Ⅳ (知能・記憶・思考)』 西村 崇宏 (国立特別支援教育総合研究所)	知能については、視覚障害児に対する知能検査の適用や実施上の留意点等について述べる。記憶・思考については、触覚による記憶や視覚障害児の思考の特徴について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。必要に応じて、引用・参考文献等を活用して学習を深めておくこと。</p>
⑭	『視覚障害児の心理Ⅴ (視覚障害と発達①)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	まず、視覚障害児の発達とは何かについて、発達における視覚の役割にも触れながら概説する。そのうえで、視覚障害児の運動の発達や触知覚の発達を取り上げ、詳しく説明する。	<p>・事前学習 子供の発達において視覚がどのような役割を果たすかについて考えておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。</p>
⑮	『視覚障害児の心理Ⅵ (視覚障害と発達②)』 金子 健 (国立特別支援教育総合研究所)	『視覚障害児の心理Ⅴ(視覚障害と発達①)』に引き続き、視覚障害児の聴知覚、視知覚、言語・認知・文字の読み、社会性発達についてそれぞれ取り上げ、詳しく説明する。	<p>・事前学習 『視覚障害児の心理Ⅴ(視覚障害と発達①)』での「Ⅰ. 視覚障害児の発達とは」の部分を復習しておくこと</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分については復習すること。また、これまでの講義を含めて、視覚障害児の発達とは何かについて、あらためて考えてみる。</p>

(2)聴覚障害教育領域「聴覚障害児の心理、生理及び病理」 責任講師：山本 晃

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
①	『聴覚障害の生理Ⅰ(聴覚機能)』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、末梢聴覚系と中枢聴覚系に分け、それぞれの聴覚系の構造と機能について概説し、聴覚障害の機序やその特性について把握するための基礎的な知識が得られるようにする。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚機能について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
②	『聴覚障害の生理Ⅱ(聴力を中心とした聴覚機能と評価)』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、聴覚機能の基本的事項及び、さまざまな聴覚検査について説明する。特に、特別支援学校(聴覚障害)で用いられている主要な聴力検査(純音聴力検査、語音聴力検査、乳幼児聴力検査)を取り挙げ、各検査の方法やオーディオグラムの基本的な見方等について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚機能の評価について理解が不足している部分は復習しておくこと。可能であれば、実際の聴力検査の場面に立ち会い、理解を深めること。</p>
③	『聴覚障害の生理Ⅲ(補聴器)』 山本 晃 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、伝音難聴・感音難聴の状態像から補聴器の適応判断について説明する。また、補聴器の基本的構造及び、補聴器の調整と評価について説明する。さらに、保護者支援を含め、発達段階に応じた聴覚リハビリテーションの目標と方針について述べる。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、補聴器について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
④	『聴覚障害の生理Ⅳ(人工内耳)』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、人工聴覚機器のうち「人工内耳」について取り上げる。まず、国内の小児の人工内耳適応基準の変遷及び、人工内耳装用児数の推移について説明する。また、人工内耳の構造と機能及び、人工内耳による効果や限界を説明した上で、人工内耳装用児に必要な配慮について述べる。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、人工内耳について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑤	『聴覚障害の病理Ⅰ(難聴の種類と原因疾患)』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、伝音難聴・感音難聴に分け、各難聴の原因となる耳疾患について、乳幼児期・児童期に多く見られる疾患を中心に症状、治療、対処方法について説明する。耳の各機能やきこへの仕組みをふまえ、なぜこの耳疾患が難聴の原因となるのか理解するための基礎的な知識が得られるようにする。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等を読んで、難聴の種類と原因疾患を対応づけて理解できるようにすること。</p>

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
⑥	『聴覚障害の病理Ⅱ (小児難聴の原因①先天性難聴)』 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、小児難聴の代表的な原因のうち、「先天性難聴」について、遺伝性要因と母体感染について取り挙げ、それぞれの難聴の症状の特徴や、教育現場における留意事項について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等を読んで、小児難聴の特に「先天性難聴」についての原因や教育現場における留意事項について、学習を深めておくこと。</p>
⑦	『聴覚障害の病理Ⅲ (小児難聴の原因②後天性難聴)』 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、小児難聴の代表的な原因のうち、「後天性難聴」について、周産期周辺の要因、感染症等について取り挙げ、それぞれの難聴の症状の特徴や、教育現場における留意事項について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等を読んで、小児難聴の特に「後天性難聴」についての原因や教育現場における留意事項について、学習を深めておくこと。</p>
⑧	『聴覚障害児の心理Ⅰ (乳幼児期の心理と発達支援)』 河原 麻子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、一般的な乳幼児期の心理発達及び、聞こえとコミュニケーションの発達について説明する。それを踏まえて、乳幼児期の聴覚障害児の心理と発達支援において重要となる事項について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。得られた知識を自分の指導経験と合わせて、乳幼児期の聴覚障害児に必要な支援について考えてみる。</p>
⑨	『聴覚障害児の心理Ⅱ (児童期の心理と教育的対応)』 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、聴覚障害のある児童の特徴と、心理を理解するための教育上の留意点について説明する。 始めに特別支援学校(聴覚障害)で学ぶ児童、次に地域の小学校で学ぶ難聴児について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚障害児の児童期における心理的特徴について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑩	『聴覚障害児の心理Ⅲ (青年期の心理と教育的対応)』 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、聴覚障害のある生徒の特徴と、心理を理解するための教育上の留意点について説明する。 特に、特別支援学校(聴覚障害)の中学部、高等部の生徒の例を踏まえて説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚障害児の青年期における心理的特徴について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>

番号	映像講義名 作成者 (所属)	講義概要	事前学習・事後学習
⑪	『聴覚障害児の心理Ⅳ (認知発達・社会性の発達) 澤 隆史 (東京学芸大学)	本講義では、学習に影響する認知発達と社会性の発達について説明する。まず、聴覚障害児の認知機能の特徴について説明し、知能・発達検査の適用や実施上の留意点等について述べる。また、聴覚障害児の社会性の発達について、発達上の課題とともに説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚障害児の認知発達や社会性の発達について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献にて、学習を深めておくこと。</p>
⑫	『聴覚障害児の心理Ⅴ (言語発達)』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、音声知覚と発声の発達、前言語期からのコミュニケーションの発達、幼児期から児童期の言語発達の三つの側面から、まず、聴児の一般的な言語発達の過程について説明し、それを踏まえた上で、聴覚障害児の言語発達の特徴や発達上の課題について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、聴覚障害児の言語発達について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑬	『聴覚障害児の心理Ⅵ (軽度・中等度難聴及び一側性難聴の理解と対応)』 山本 晃 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、聴覚障害の程度と身体障害者手帳の等級について説明した上で、軽度・中等度難聴及び一側性難聴について取り挙げ、特別支援学校(聴覚障害)のみならず通常の学級に在籍している幼児児童生徒に対する配慮事柄について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義内容を振り返り、軽度・中等度難聴及び一側性難聴について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑭	『聴覚障害児の心理Ⅶ(Listening Difficulties の理解と対応)』 小淵 千絵 (国際医療福祉大学)	Listening Difficulties (LiD) とは、聴力には問題がみられないにも関わらず、聞き取りにくさを訴える症状である。本講義では、LiD の基本的な理解を深められるよう、LiD の症状やその原因について概説し、さらに LiD と他障害を鑑別するための評価方法、及び具体的な支援方法について述べる。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義の内容を振り返り、LiD について理解が不足している部分は復習しておくこと。引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。</p>
⑮	『小児難聴の早期発見』 井口 亜希子 (国立特別支援教育総合研究所)	本講義では、これまでの講義の内容を振り返りながら、小児難聴の早期発見が重要とされる背景について説明する。また、国内の小児難聴の早期発見のための体制の整備状況及び、難聴の早期発見後、乳幼児期の聴覚障害児やその家族に対して必要な支援について説明する。	<p>・事前学習 印刷教材に目を通しておくこと。</p> <p>・事後学習 講義の内容を振り返り、引用・参考文献等にて学習を深めておくこと。得られた知識を、自分の指導経験等と合わせて、小児難聴の早期発見の重要性と、早期発見後に必要な支援について考えてみること。</p>

問い合わせ先
国立特別支援教育総合研究所 免許法認定通信教育オフィス
Mail:v-tsushin@nise.go.jp